



株主通信

第79期 中間報告書
(2025年1月1日~2025年6月30日)

TAMRON
Focus on the Future

株主の皆様へ



代表取締役社長 **桜庭 省吾**

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第79期上半期の営業概要について、ご報告申し上げます。

当上半期におきましては、経済環境は地政学リスクの継続に加えて、米国の関税政策による混乱が見られ、先行き不透明感が高まりました。また、為替については、2024年までの大幅円安基調から円高に転じ、当社にとってはマイナス影響となりました。

市場環境では、レンズ交換式カメラ市場は数量、金額ともに増加しましたが、交換レンズ市場は数量では増加したものの、2024年上半期が高成長局面であったこともあり金額ベースでは減少となりました。一方で監視市場や車載市場は安定成長となりました。

当社においては、監視&FA関連、モビリティ&ヘルスケア、その他はほぼ前年同期並みに推移しましたが、円高によるマイナス影響に加え、2024年上半期が好調の写真関連が反動減等による市場減少の影響もあり減収となりました。利益面も、粗利率は改善したものの、減収影響と為替のマイナス影響、R&D強化等による販管費増によって減益となりました。

配当金について

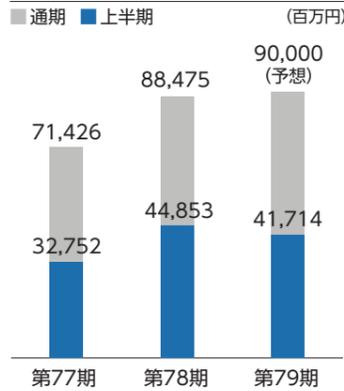
中間配当金につきましては、上半期業績は厳しい状況となりましたが、財務状況等を総合的に勘案し、前年に対し5円増配となる1株につき40円とさせていただきます。

引き続き米国の関税政策による影響の不透明さ、海外経済の減速懸念等、不確実性は高くなっておりますが、上半期の減収減益から下半期では2桁の増収増益へと転換させ、通期での増収増益達成に向け、グループ一丸となって邁進してまいります。

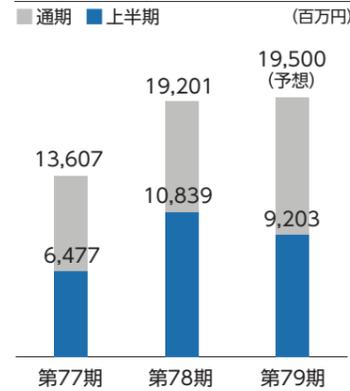
株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年9月

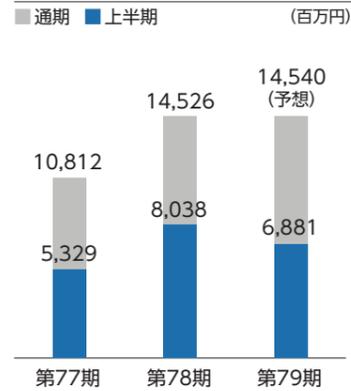
●売上高



●営業利益

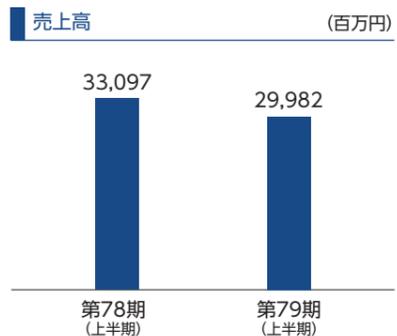


●親会社株主に帰属する当期(中間)純利益



セグメント別事業の概況

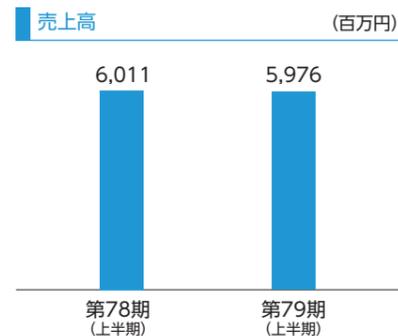
写真関連事業



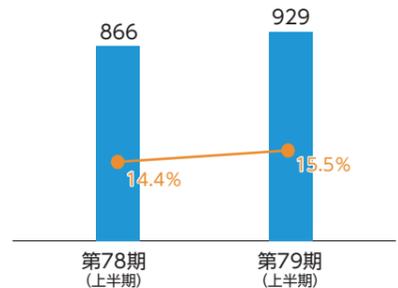
営業利益(百万円)／営業利益率



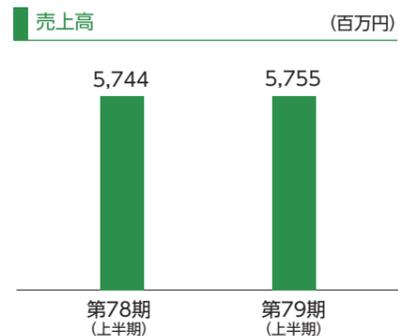
監視&FA関連事業



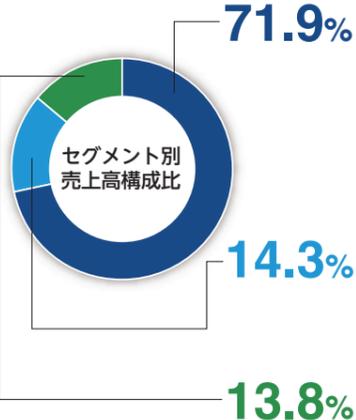
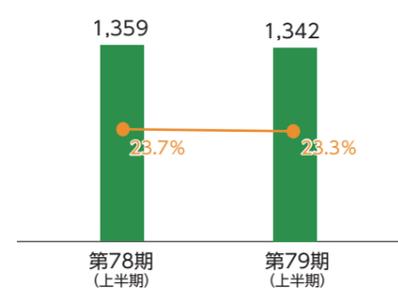
営業利益(百万円)／営業利益率



モビリティ&ヘルスケア、その他事業



営業利益(百万円)／営業利益率



写真関連事業

自社ブランド製品は、2024年にソニー Eマウント用3機種、ニコンZマウント用3機種、さらには、当社初となるキヤノンRFマウント用1機種の計7機種の新製品を投入した効果等により、日本やインドでは販売が好調に推移しました。しかしながら円高によるマイナス影響や、米国や欧州では販売回復に至らず、また、特に前年同期に高成長をみせた中国では反動減となったこともあり、自社ブランド全体としては減収となりました。OEMにおいても市場の減少や受注機種の所要減等により減収となりました。
このような結果、写真関連事業の売上高は299億82百万円(前年同期比9.4%減)、営業利益は84億3百万円(前年同期比15.8%減)となりました。

監視&FA関連事業

監視カメラ用レンズやカメラモジュールは、高精細、高解像ニーズの高まりや用途の多様化に伴う市場の安定成長により2桁の増収となりました。一方でFA / マシンビジョン用レンズは客先における在庫調整の影響を受け、TV会議用レンズは市場の低迷により減収となりました。
このような結果、監視&FA関連事業の売上高は59億76百万円(前年同期比0.6%減)、営業利益は9億29百万円(前年同期比7.3%増)となりました。

モビリティ&ヘルスケア、その他事業

車載カメラ用レンズは、中国市場での自動車販売低迷等の影響を受けましたが、安全運転支援システム(ADAS)の普及による旺盛な需要を背景にセンシング用途を中心に販売を伸ばし増収となりました。また注力分野の医療用レンズも、当社の強みである極小径や薄膜技術で低侵襲を可能にする製品ラインナップの増加により2桁の増収が継続しました。コンパクトデジタルカメラ用やビデオカメラ用レンズには市場の低迷により減収となりました。
このような結果、モビリティ&ヘルスケア、その他事業の売上高は57億55百万円(前年同期比0.2%増)、営業利益は13億42百万円(前年同期比1.3%減)となりました。

Topics トピックス

Topic 1 超望遠から広角まで、16.6倍の幅広い焦点距離をカバーする高倍率ズームレンズ 18-300mm F/3.5-6.3 Di III-A VC VXD (Model B061) ニコンZマウント用は8月28日に、キヤノンRFマウント用は9月26日に発売

Model B061は2021年発売当時に世界で初めて*1ズーム比16.6倍を達成したレンズとしてソニーEマウント用と富士フィルムXマウント用*2を発売しました。そしてこのたび、ニコンZマウント用とキヤノンRFマウント用を新たに発売しました。

本レンズは焦点距離18-300mm*3をカバーし、レンズ交換の手間なく超望遠から広角まで撮影を楽しめます。風景、スナップ、ポートレート撮影はもちろん、超望遠300mmならではの動物や鳥、スポーツ、子どもの運動会など多彩なシーンで活躍します。さらに、コンパクトな設計のため、旅行先や登山にも気軽に持ち運ぶことができます。

*1 APS-Cサイズミラーレス一眼カメラ対応ズームレンズにおいて。(2021年7月当時。タムロン調べ)
*2 ソニー Eマウント用は2021年9月24日、富士フィルムXマウント用は2021年10月28日に発売済
*3 35mm判換算27-450mm相当(ニコンZマウント用)、28.8-480mm相当(キヤノンRFマウント用)



※画像はニコンZマウント用です。

<https://www.tamron.com/jp/consumer/lenses/b061/>



Topic 2 第2世代[G2]大口径超広角ズームレンズ 16-30mm F/2.8 Di III VXD G2 (Model A064) ソニー Eマウント用、ニコンZマウント用発売

市場で好評を得た17-28mm F/2.8 Di III RXD (Model A046)が進化し、第2世代[G2]モデルとして誕生したModel A064は、ズーム倍率を拡大することで、より広い視野での撮影が可能となり、表現の自由度が広がりました。また、軽量・コンパクトな設計を維持し、高画質を実現。AF性能を向上させるとともに、最新のレンズデザインにアップデートし、操作性を高めました。さらに、レンズに動画・写真撮影用の実用的な機能を割り当てられるTAMRON Lens Utility™にも対応しています。初代の機動力と実用性を継承しながら、広角撮影の可能性をさらに広げたレンズが誕生しました。



※画像はソニー Eマウント用です。

<https://www.tamron.com/jp/consumer/lenses/a064/>



TAMRON Lens Utility™について
<https://www.tamron.com/jp/consumer/soft/lensutility/>



Topic 3 新工場「ビンフック工場」本格稼働開始

2025年1月より、ベトナム第2の生産拠点「ビンフック工場」が本格稼働を開始しました。中長期的な事業拡大、地政学リスク対応、安定供給体制の強化を目的に建設され、主にカメラ用交換レンズや車載・監視カメラ用レンズを生産。2026年の量産開始、2028年のフル稼働を目指します。日本・中国・ベトナムの世界3極体制の中で、ベトナム拠点の生産力と柔軟性をさらに高めていきます。



Topic 4 株式会社マプリィと資本業務提携を締結

タムロンは、地理空間情報アプリ「mapry」を提供するスタートアップ、株式会社マプリィと戦略的協業を開始し、同社へ出資しました。マプリィはLiDAR機器やスマホアプリを開発する企業で、「可視化」に強みを持ちます。タムロンの光学技術と融合し、新たな価値創出を目指します。



Topic 5 自己株取得

株主還元の実現、資本効率の向上および機動的な資本政策の遂行を目的に、2025年2月10日～2月21日にかけて東京証券取引所における市場買付により3,980,141,000円(1,000,000株)の自己株式を取得いたしました。5月には取得した自己株式の全てを含む3,300,000株の消却を実施しました。

Topic 6 株式分割

当社株式の投資単位を引き下げることで、株式の流動性を高め、投資家層の拡大を図ることを目的に、昨年に引き続き2025年6月30日を基準日とした、普通株式を1株につき4株の割合とする株式分割を実施しました。

会社概要

商号 株式会社タムロン
 創業 1950年11月1日
 設立 1952年10月27日
 本社 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
 資本金 69億23百万円

株式の状況

発行可能株式総数 160,000,000株
 発行済株式総数 42,700,000株(注)
 単元株式数 100株
 株主数 13,571名
※単元未満株主除く、自己名義含む

注. 2025年7月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。
 上記株式数は当該株式分割前の数値を記載しております。

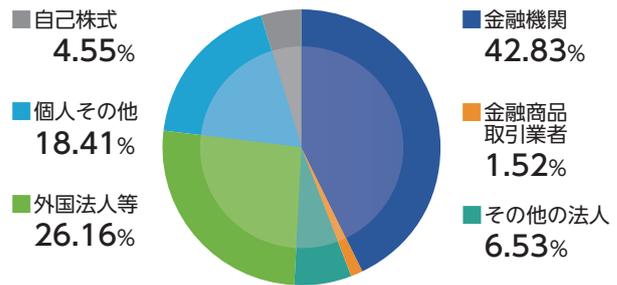
■大株主

株主名	所有株式数(千株)	持株比率
ソニーグループ株式会社	6,259	15.35%
Suntera(Cayman)Limited as trustee of ECM Master Fund	4,385	10.76%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,148	10.17%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,553	6.26%
株式会社埼玉りそな銀行	2,005	4.92%
日本生命保険相互会社	1,340	3.28%
株式会社アルグラフィックス	1,082	2.65%
株式会社三菱UFJ銀行	520	1.27%
タムロン協力会社持株会	477	1.17%
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	454	1.11%

注 1. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式(1,944千株)を控除して算出しております。
 2. ソニーグループ株式会社の持株数6,259千株は、みずほ信託銀行株式会社へ委託した信託財産であります。信託約款上、議決権の行使並びに処分権については、ソニーグループ株式会社が指図権を留保しております。
 3. 2025年7月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。所有株式数及び持株比率は、当該株式分割前の数値を記載しております。

■株式所有者別分布

※単元未満除く



株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 毎年3月
 基準日 定時株主総会 毎年12月31日
 期末配当 毎年12月31日
 中間配当 毎年6月30日

単元株式数 100株
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先(電話照会先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
※取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

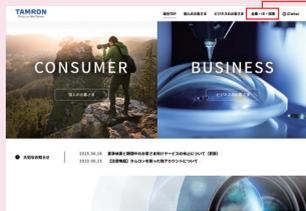
公告方法 電子公告 ※ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載を行います。
 当社ホームページ <https://www.tamron.com/jp/>
 お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- 未払配当金の支払について
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

ホームページのご紹介

当社ホームページでは、事業内容をはじめ、商品のご紹介からIR情報に至るまでの様々な情報を掲載しています。ぜひご利用ください。

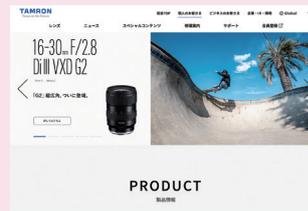
コーポレートサイト
<https://www.tamron.com/jp/>



技術ページ
<https://www.tamron.com/jp/technology/>
 コーポレートサイト>企業・IR>採用>技術情報



個人のお客さまサイト(写真用レンズ)
<https://www.tamron.com/jp/consumer/>



ビジネスのお客さまサイト(産業用レンズ)
<https://www.tamron.com/jp/biz/>



ソーシャルメディア 公式アカウント

- X <https://x.com/TamronJP>
 タムロン製品・サービスに関する最新情報やイベント情報、企業情報など幅広い情報をいち早くお届けします。
- Instagram <https://www.instagram.com/tamronjp/>
 タムロンレンズで撮影された写真をアップしていきます。ユーザー参加型のイベントの他、#tamronを付けて投稿頂いた写真には積極的にいいねさせて頂きます。
- LinkedIn <https://jp.linkedin.com/company/tamron-co.-ltd.>

- Facebook <https://www.facebook.com/tamron.highpowerzoom>
 写真レンズに関する製品情報の他、最新のHPコンテンツ紹介、フォトコンテストや各種イベント・キャンペーン情報を発信しています。
- YouTube <https://www.youtube.com/user/tamronpr>
 CSR活動や、タムロンのものづくり、写真家による製品レビューなど、タムロンの取り組みを動画で発信しています。

※表紙の写真は、第17回 タムロン鉄道風景コンテストの入賞作品です。

株式会社タムロン

〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
 TEL 048-684-9111(代) FAX 048-683-8289 <https://www.tamron.com/jp/>
 ■IR情報関連に関するお問い合わせ：経営戦略本部
 TEL 048-684-9114(午前9:00~午後5:20) FAX 048-683-8282
 e-mail: kabushiki@tamron.co.jp